

3. どうやってサケを増やすの? ② ー 子どもを育てる

(1) 卵の間も世話をする

受精した卵は、ちょうどいい量の地下水が流れる水そう(ふ化器)に入れられます。

1ヶ月ほどで眼ができる(発眼)と、死んだ卵と受精していない卵を取り除きます。さらに1ヶ月ほどして、ふ化(卵がかえる)直前になると、「養魚池」に移します。



(上)受精した卵。



(右)受精した卵を管理するふ化器。地下水が流される。(札内さけますふ化場)



眼ができた卵(発眼卵)。(写真:独立行政法人水産総合研究センターさけますセンター)

(2) 成長にあわせて池を変える

養魚池の中には砂利がしいてあり、生まれただの魚(仔魚)が、かくれることができるようにしてあります。仔魚は光をきらうので、池は建物の中で真っ暗にしてあります。

サケの仔魚は、おなかに栄養の入ったふくら(臍囊)を付けてこれで育ち、エサはとりません。



(上)ふ化したばかりのサケが育つ養魚池のある建物。(札内さけますふ化場)

(右)サケの仔魚は光をきらうので、養魚池の窓は光が入らないようにしてある。



(上)サケの「仔魚」。(写真:独立行政法人水産総合研究センターさけますセンター)

(右)ふくらがなくなった「稚魚」。飼育池に移されエサを食べる。



稚魚が育てられる飼育池。(札内さけますふ化場)

(3) 稚魚はエサで育てられる

仔魚は、2ヶ月ほどで自分でエサをとることができるまでに育ち、砂利の間から出て泳ぎ出します。これを「稚魚」といいます。

稚魚は「飼育池」に移されて、エサをあたえられます。始め0.4gくらいだった稚魚が、1~2ヶ月で1gほどに成長します。

注意!!…見学などの時は、あらかじめお願いして許可をもらってからにしましょう。作業のじやませず、お礼をきちんとしましょう。ただし、養魚池は光を入れることができないので、見ることができません。

協力・問い合わせ

社団法人 十勝釧路管内さけます増殖事業協会 0155-25-0722

独立行政法人 水産総合研究センター さけますセンター 帯広事業所 0155-64-5221

参考

- 「水産総合研究センターさけますセンターのホームページ」
<http://salmon.fra.affrc.go.jp/>
- 「北海道さけ・ます増殖事業協会のホームページ」
<http://www.sake-masu.or.jp/>

がかくれるための砂利などがしいてあり、光を入れないため室内であることが多い。
※4 仔魚(しぎよ): ふ化してから、すべてのヒレにある条=スジの数が成魚と同じになるまでの魚。サケの場合、エサをとらず腹についたふくら(さいのう)から栄養をとる。

※5 稚魚(ちぎよ): すべてのヒレにある条=スジの数が、成魚と同じになってから、ウロコがでかあがるまでの間の魚。

※6 飼育池(しいくち): 泳ぎだした稚魚(ちぎよ)を育てるための池。エサをあたえる。

川で行われた大きな工事

川につながる

川につながる農業

川につながる漁業や工業

付録